

# 学習院 戸山キャンパス4B館



4 B館 (2020年現在の写真)

女子大学の学生の多くは中庭側からこの建物を見ていることでしょう。実はこの見えている北側は建物の裏手になり、本来の入り口は南側(女子中・高等科グラウンド側)にあります。2019年9月まで、大学の学科事務室や教員の研究室、女子中・高等科の旧西洋画教室、C.A.T. ルームなどがありました。

江戸時代、戸山の地には尾張徳川家の下屋敷がありました。「戸山御屋敷」「戸山山荘」と呼ばれた広大な屋敷を尾張徳川家は、専らレクリエーションの場として活用しました。鹿狩りや花見の宴を催したり、地形を生かして作られた池泉回遊式の庭園は江戸有数の名園といわれ、将軍も度々訪れています。

明治時代には、1873(明治6)年に陸軍兵学寮戸山出張所がおかれしました。現在の戸山キャンパスがある北部の地域は練兵場や射撃場として利用されていましたが、1912(明治45)年4月から翌13(大正2)年にかけて近衛騎兵連隊がこの地に移転し、兵舎・本部・包厨(炊事場)・浴室等が建設されました。

戦後、校舎を戦災で失っていた女子学習院が、1946(昭和21)年にその跡地を再利用し、建物の内部を教室に改修して授業を開始しました。そして翌1947(昭和22)年に女子学習院は学習院女子中・高等科となり、1950(昭和25)年には学習院大学短期大学部が設置されました。以降、70年のうちに、戸山キャンパスの構内には新しい校舎が次々と建設され、近衛騎兵連隊時代の建物は姿を消していきました。

現存している近衛騎兵連隊時代からの建物は、この4B館と女子中・高等科C館のみとなりました。4B館は幾度も改修を経て現在まで使用されてきましたが、2021年度に新たに耐震改修工事が行われ、再び校舎・研究室として使用されるとともに展示室を新設する予定です。このパンフレットは4B館の歴史的・建築的な特徴を簡潔にまとめたものです。手にとって4B館の詳細を実際に確認しながら歩いてみましょう。



4 B館の西玄関 昭和20年代

戸山に女子学習院が移った頃は本館と呼ばれていました。当時の屋根は瓦葺きで、室内の暖房にはストーブを使っていました。現在の建物には、ストーブの煙突が取り付けあった金具と眼鏡石(めがねいし:煙突穴をふさいだ石)が残っています。1887(明治20)年に昭憲皇太后より賜った御歌の碑が青山にあった校舎跡地から移築されました(写真右手)。左手には現在も建物の前で大きく成長しているヒマラヤスギも見えます。



近衛騎兵連隊時代の兵舎の絵はがき

1918(大正7)年以降に作成された絵はがき。当初の建物は瓦葺きで、外観は煉瓦壁のみでした。

建物ができてから約10年後の1923(大正12)年に関東大震災が発生し、その後1929(昭和4)年に補強工事が行われたようです。煉瓦造の躯体に、鉄筋コンクリートの構造補強が行われ、建物の内部には臥梁が、外壁には薄茶色の付柱などが設けられました。南側の玄関周りの構造も、このときのものです。これらの鉄筋コンクリートの構造補強の表面は、グレーと黄褐色の砂の粒を用いた2種類の「人造石塗洗出し仕上げ」となっており、建物を特徴づけています。2020年現在の外観は、この関東大震災後の構造補強の特徴をよく残しています。

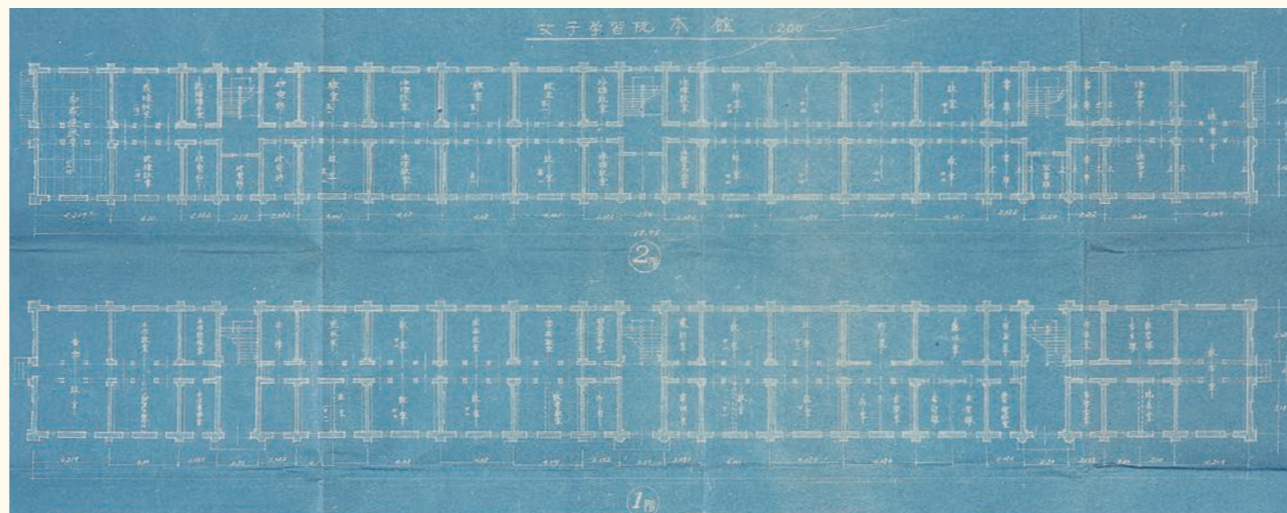


1935(昭和10)年頃の様子



1960(昭和35)年頃の校舎

校舎の前でくつろぐ女子中・高等科の生徒が写っています。左手には鐘楼と鐘があります。この鐘は、第1次世界大戦時に中国・青島の海軍基地に停泊していたドイツ軍艦のものといわれています。1947(昭和22)年に宮内省から寄贈され、1952(昭和27)年まで授業の開始・終了の鐘が鳴らされてきました。その後、4B館の東側の敷地に現在もつり下げられています(耐震改修後は展示室に移設する予定です)。



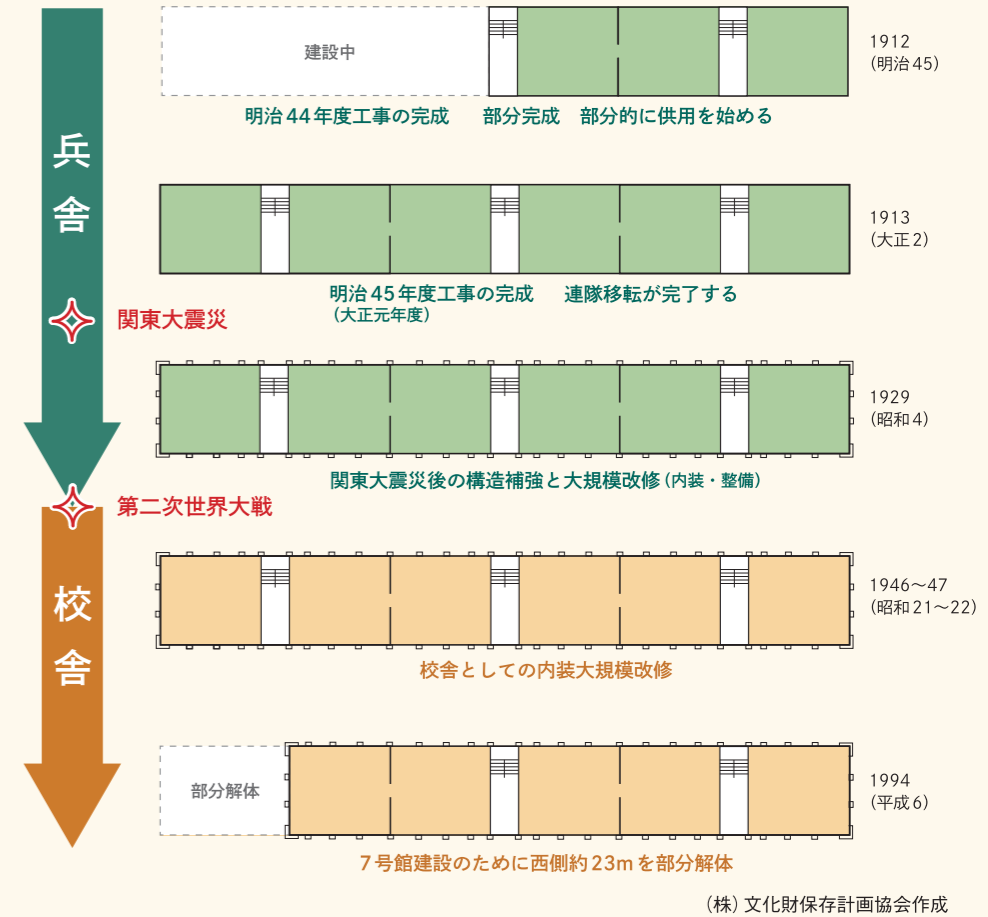
女子学習院本館平面図

1947(昭和22)年に、財団法人学習院設置許可の文書に添付された平面図です。1階には音楽教室・工作教室・図画教室・数学教室・教官室など、2階には和裁縫教室・裁縫教室(洋)・地理教室・外語教室などの記載があり、当時の4B館にどのような部屋があったのかが分かります。1950(昭和25)年には短期大学部(1953年より女子短期大学)が設置され、校舎の西側を短期大学部が使用し、東側を女子中・高等科が使用するようになりました。

## 戸山キャンパス4B館 建築概要

名称: 学習院女子大学4号館・学習院女子中・高等科B館(旧 近衛騎兵連隊兵舎)  
 建築年代: 着工 1911(明治44)年5月, 部分完成 1912(明治45)年4月  
 竣工 1913(大正2)年3月  
 設計監督: 陸軍省近衛師団経理局, 工事請負: 堀川利尚(土木用達組)  
 構造: 煉瓦造及び鉄筋コンクリート造, 2階建, 寄棟屋根, 正面南面

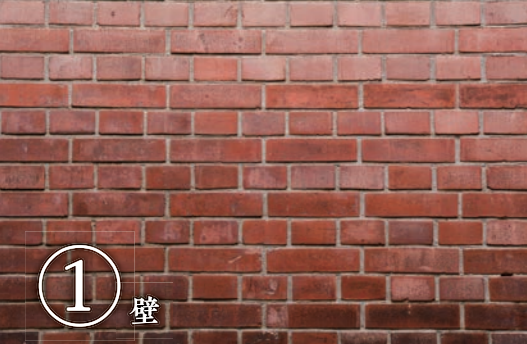
## 建物の建設経緯と来歴



学習院女子大学  
Gakushuin Women's College

学習院女子大学 学芸員課程委員会・収蔵資料管理運営委員会作成





① 壁

▲イギリス積みの煉瓦造で、明治・大正時代の当初部をそのまま残している。



②

人造石塗  
洗出し仕上げ

▲外壁面のうち、腰周り、柱形、軒周り、南側アーチ入口周りは人造石塗洗出し仕上げが施されている。仕上げの色調は2種類を使い分け、柱形や軒廻りなどの壁面は、煉瓦壁の色調に合わせて黄褐色の骨材(砂の粒)が用いられている。



③

南側入り口両脇の柱形

▲フルーティング(溝彫)を施した円柱型。軒の下にはデンティル(歯型装飾)が施されている。どちらも古代ギリシャ神殿建築にみられる特徴。



④

煙突の支持金物

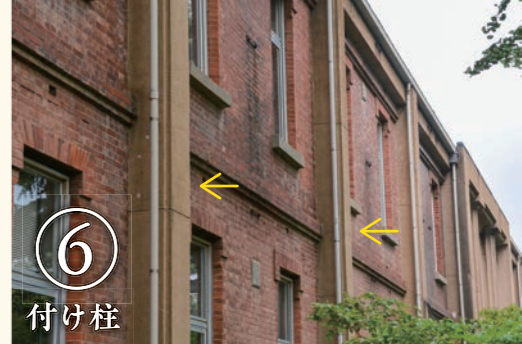
▲兵舎時代のストーブの煙突は現存しないが、支持金物が壁面や軒蛇腹の各所に残されている。



⑤

眼鏡石

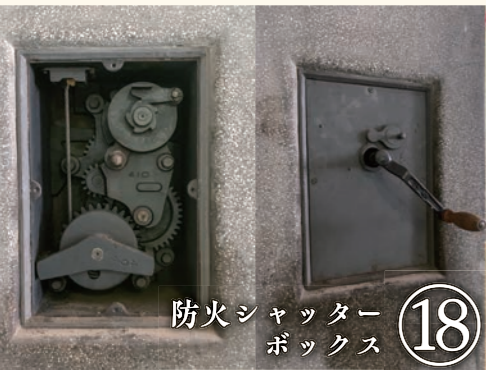
▲ストーブの鉄製煙突が壁を貫通する部分に配置する石である。円形の穴が施されているため、通常「眼鏡(めがね)石」と呼ばれる。窓と窓の間の各所に1~2個配置されており、兵舎時代のストーブの位置がわかる。



⑥

付け柱

▲関東大震災後の改修で外部に付けられたもの。南側・北側の両面の2スパンずつ(入り口の両側のみ1スパン)に配置されている。人造石塗洗出し仕上げが施されている。



防火シャッター  
ボックス

⑱

▲鈴木式シャッターのボックス内部。火災時にサムピースを操作することでシャッターが自動的に降下する仕組みになっている。解放させる時は専用の巻揚レバーハンドルを使う。



⑰ 防火シャッター

▲西側の階段と廊下の境に鋼製の防火シャッターが1階と2階にある。関東大震災後に広く普及したもので、その時期に設置されたものと思われる。



⑯ 兵舎時代の棚「被服棚」

▲板張りの床とともに、兵士個人の衣服や生活用品を仕舞っておくための2段の棚が残っている(写真奥)。棚の下には靴や手拭いを掛けるための折釘も残存している。壁には木釘やストーブの煙突用の穴の痕も残る。

▼兵舎の出入口は扉がなく、柱と柱の間に鴨居を付けるデザインだった。その上に束を立て、さらに筋違を設けるものであった。格天井や腰壁も兵舎時代から残るインテリアである。



木製鴨居・格天井・腰壁など

⑮



⑭ 教員研究室に残る木製柱

▼兵舎時代の兵室を戦後に教室や研究室として使用する際に、兵室の入り口に設置されていた柱や鴨居は壁に埋め込まれ、現在も多くの部屋に残っている。



小屋組(トラス)

⑬

▼屋根はクイーンポストトラスとよばれる木製の対束小屋組を用いている。梁間7.2間(約12.5m)。



⑫ 西階段

▼踊り場から南方向の階段ホールを見る。腰壁や手すり壁には人造石塗り研ぎ出し仕上げが施されている。



⑪ 階段室内部

▼明治時代以来の当初の石張りの床は、西側・東側の両方の階段室1階に残っている。



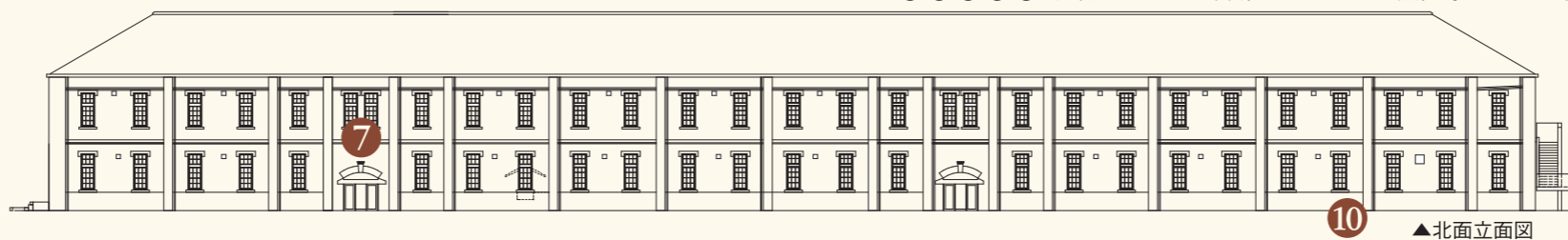
⑩

樋受石

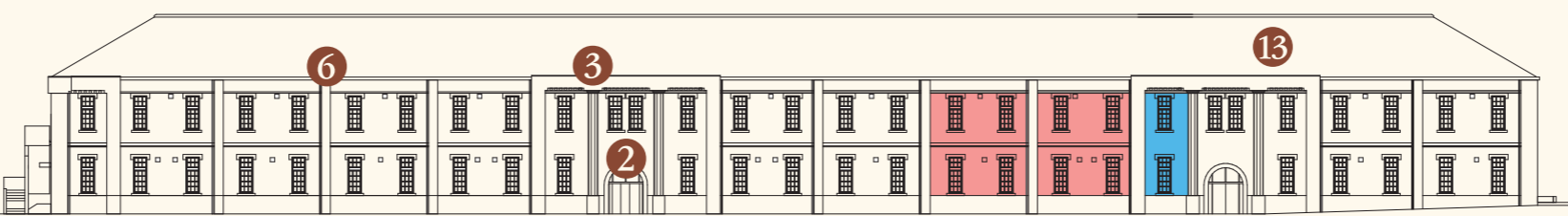
▼樋柱は後の改修によって塩ビ管としているが、樋柱の下部には、当初の樋受石が残存している。

## 耐震改修前の4B館 (2019年9月撮影)

※①・④・⑤・⑧・⑨は建物のほぼ全ての箇所にみられるため場所は示していない。

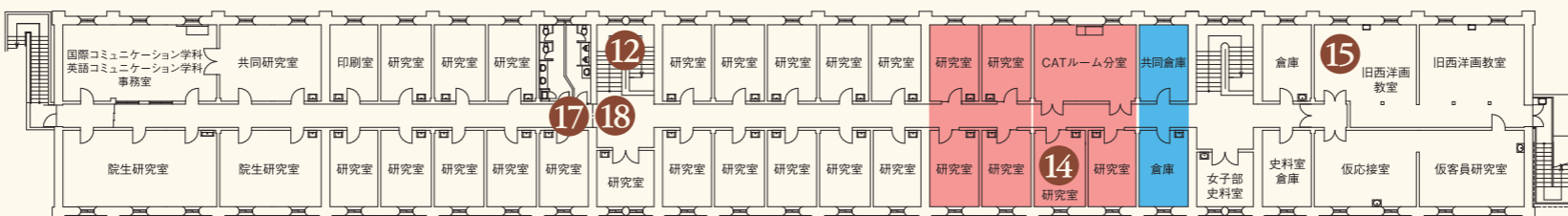


▲北面立面図

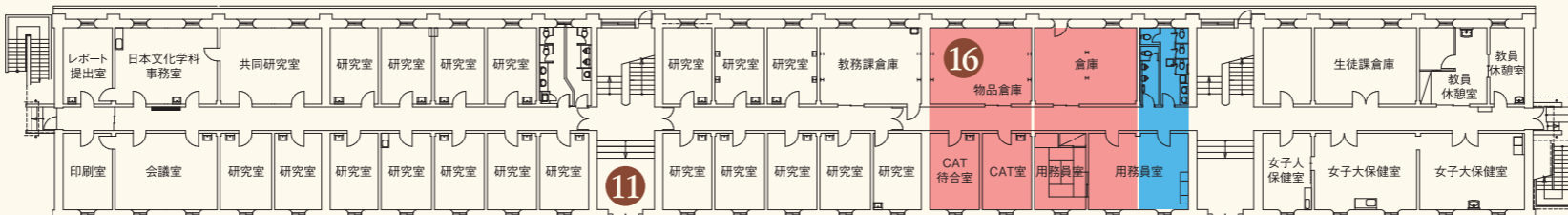


▲南面立面図

建物の設計の基本パターンを赤と青で示しました。階段室を中心として左右に1スパン×1、2スパン×2のパターンは一つの部隊用の兵舎と考えられ、1階と2階に繰り返されています。



▲2階平面図



▲1階平面図

S=1/500

⑦ 要石

▲北側出入り口の上部は煉瓦1枚半の扇形アーチで、頂部にはキーストーン(要石)を備える。後の改修によってコンクリート製のまぐさが付加され、隙間は煉瓦積で埋めている。

▶1階・2階の窓は、上部を煉瓦のフラットアーチとして底形を設けている。開口部の両側は隅切(45度)型の役物煉瓦を用いて、室内への採光効果を高めている。



窓まわり(上部)

⑧

▶1階・2階の窓すべての窓に石製の窓台が付けられているが、風化欠損等の補修のためにセメントモルタル塗りを施している。



窓まわり(下部)

⑨